



映画化までに16年。
時間をかけてでも、大好きな札幌を舞台に
映画を撮りたかった。

SAPPORO
魅力を発信

札幌の街が持つ魅力を 映画で発信

映画「探偵はBARにいる」プロデューサー

須藤 泰司さん Suto Yasushi

高校まで札幌で生活。京都の大学を卒業後、東映に入社。ドラマ「相棒」のプロデューサーとして活躍。すすきのが舞台の映画「探偵はBARにいる」ではプロデューサー、脚本制作も務める

狸 小路やすすきののにぎわい、市電通り沿いに立つ古い建物、そこに降り積もる雪。とにかく札幌の街の雰囲気が大好きなんです。

探偵がすすきのを舞台に活躍する映画「探偵はBARにいる」の原作本との出会いは、入社2年目のとき。札幌が舞台であるストーリーに興味を引かれ、読み始めると面白くて、これは映画にできるかもと思ったのが始まりでした。

実際に映画化を進める中で、特にこだわったのが主人公役。原作者は札幌の人で、主人公の探偵も札幌が根城。となると探偵役は道産子だろうと。そんなとき北海道で放送されていたおおいずみよゆうさんの出演番組を見て、探偵にぴったりだと思い、主演をお願いしました。

僕はこの映画の脚本も担当したのですが、その際、街の空気が伝

わるように、撮影場所をイメージしながら書きました。主役の移動シーンは市電にしようとか、旭ヶ丘辺りの閑静な雰囲気を入れようとか。何より、皆さんの見覚えのある場所が映画に出てきたら、きっと喜んでもらえるだろうなと思って、札幌の街なかの建物や路地など、どんどん作品に取り込みました。

昨年、続編を撮影したのですが、札幌市はコンテンツ特区に指定され、撮影の協力体制がさらに進んだおかげで、市街地の映像を前作以上に盛り込むことができましたよ。

原作本を読んでから、映画化までに16年かかりました。そんなに時間をかけても映画化したかったのは心から札幌が好きだから。これからも札幌を舞台に映画を作って、まちの素晴らしさをたくさんの人に知ってもらえたらうれしいですね。

映画・映像が
撮りやすく

札幌コンテンツ特区

撮影手続きを行いやすくなり、海外と連携して映像制作を行ったりすることで地域経済の活性化を図る特区。札幌は23年12月に国から指定された。



次回作「探偵はBARにいる2」は今年5月に公開。すすきの、大通公園のほか、通りを封鎖して撮影した市電のシーンなど、札幌の映像が満載です。

市民みんなで 札幌の魅力を高め、伝えていこう

皆さんが「札幌のここが好き」、「ここが魅力的」と感じることを、自分なりの方法で、創造・発信していくことが、札幌の魅力をさらに高めることにつながります。まずは、札幌の大好きなところを見つけることから始めてみませんか。

魅力考察 その3

札幌に住んだことのある道外在住者と 札幌市民による「魅力の評価」(5点満点)

右ページのほか、「防犯・防災など安全安心なまちづくりに取り組んでいる」など、日常生活に身近な取り組みも、道外者の評価が市民の評価を上回っています。

項目	市民	道外者
防災・防犯など安全安心なまちづくりに取り組んでいる	3.0	3.5
住民同士の交流やふれあいが活発	2.8	3.4
子育てや介護支援の支え合いが広がっている	2.8	3.3
札幌ならではの食文化・産業が充実	3.3	4.1
札幌ブランドの優れたモノやサービスが開発されている	3.0	3.9